
白銀月夜の狼

露草緋織

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白銀月夜の狼

【Nコード】

N8224Y

【作者名】

露草緋織

【あらすじ】

ある雪の降り積もる朝、男爵子息カーティスはなくしものを探しに森へ出かけた。

その森で彼は小さな少女を見つけた。

華奢な身体を覆う艶やかな長い銀の髪。濃蒼色の瞳。

その少女はフェリシアと名乗った。

暖かい家に連れて帰ると、フェリシアは泣いて嫌がった。

「あの森を離れたくない。私は厳寒の地でないと生きられないのだ」と。

白く冷たい風が辺りの木々を撫でる。

葉も無い枝は、サワサワと哀しく軽い音を立てて静まる。

気温は下がっているというよりも、ない。水などの液体も存在しない。何故なら瞬時に凍ってしまうから。

生物が全くいないようなこの真つ白な冬の森。

真冬。闇夜。満月。雪。 この条件が揃ったときのみ、「それ」は姿を現す。

白銀の体毛で覆われ、睫毛も白銀。

色が薄く、いかにも儚いといった感じで煙のように消えてしまいうる。そう。

しかし濃蒼色の瞳が爛々と輝き、儚いという印象を打ち消す。その瞳は、まるで。

狼。

そこには二匹の狼が静かにこちらを見つめていた。

「何故だ……。何故死なねばならぬ。あのような下等な生物の為に」
「下等は貴様だ。我が掟を破るなどと愚劣な行為を」

この場は冷たい。寒い。

緋色の髪。燃え盛る炎の如きその髪色は、我が種族にとっては不愉快極まりない。いつだ、いつになれば……。

「お前は大罪を犯した。二度とここに現れるでないぞ」

それは、我が同胞を護るために犯した罪だとしても。生きるために殺したのだとしても。

掟を壊さぬために作られた掟は、あまりに残酷だ。

銀よ。かつて我を創っていた銀よ。
もう一度我を受け入れてくれたまえ。そして。

「あの森に。あいつの元へ……。逢いたいのだ……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8224y/>

白銀月夜の狼

2011年11月24日15時47分発行